

# ボランティア通信

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)

※「ボランティア」とはポルトガル語の舵取りという言葉から、学生の皆さんのボランティア活動と社会を繋ぐ役を果たしたいという意味が込められています。



## TFT- Sophiaがチャリティマルシェを開催しました

皆さんは課外活動団体「TFT-Sophia」が考案し、学生食堂の皆様のご協力を得て提供されているヘルシーメニューをご存じですか？学生の食生活改善を試みながら、その提供メニューの販売価格の一部をアジア・アフリカの子供達の給食費として支援しているのです。

TFT (Table For Two)-Sophiaは、先進国で問題となっている食に起因する生活習慣病の改善を図るとともに、途上国が抱える飢餓や栄養失調の問題を解決することをコンセプトに活動しています。そんなTFT-Sophiaが、10月10日に“cafe279”さん(船橋市前原西4-29-1)とのコラボで「チャリティマルシェ」を開催しました。(※十分な感染症対策を行ったうえで実施しています)

**給食2193食を途上国に送ることができました！**



今回のコラボ企画、「チャリティマルシェ」がどのように生まれたのか？

当日の様子や、学外での活動で得た感想などをTFT-Sophia副代表の田中杏果さん(総合人間科学部社会学科2年)に報告してもらいました。

### 企画実現のきっかけ

新型コロナウイルス感染症拡大によって、学食を主な活動場所としている私たちは、活動開始が困難な状況に陥っていた。

どう寄付金を募っていくか、人々の食生活に関与していくか、頭を抱えている中、支援先の一つであるフィリピンから動画が送られてきた。そこでは、「食事の回数を減らすしかなく、子どもたちが今まで以上に満足に食べられなくなってしまったことが申し訳ない」「政府からの支援も打ち切れ、食べるものがないから必死で今は草を食べて食いつなぎ、作物が育つのを待っている」「以前に比べて痩せてしまった」「苦しい、でも毎日頑張らな」という言葉が語られており、現地の人々は、想像していた以上に苦しい生活を送っていた。

苦しい中、それでも笑顔で「体に気をつけて活動を頑張ってください」という彼らを見て、今のままでいけないと思い、メンバーの一人が懇意にしているカフェに相談を持ち掛けたところ、「チャリティマルシェ」という企画が立ち上がり、10月10日の開催にこぎつけることができた。

「チャリティーマルシェ」では、TFT-Sophiaの活動に賛同してくださったハンドメイド作家さんにも協力していただき、カフェのメニューのほかに、アクセサリーや小物、私たちが作成した動画などを販売した。

当日は台風予報も出ていたが、多くの方が足を運んでくださった。普段活動を広報してもなかなか届かない主婦やご年配の方に、私たちの活動を伝える機会となり、ボランティアを少しでも身近に感じられるきっかけ作りもできたのではないかと感じている。

### 来場者の声

「チャリティーマルシェ」に来場してくださった方には、「普段は途上国のことや、自分たちが食べ物を美味しく食べている間に、食事に困っている子のことなんて考えないけど、今日はいい機会をいただけた。ありがとう、娘にも今日のことを伝えてみるわ。何かあの子にも響くことがあればいいな。」とってくださる方もいた。

### イベントを振り返って

支援に対し関心を持ってくださった人、そしてその人がさらなる輪を広げようとしてくださっている瞬間を目の当たりにして、大変嬉しい出来事となった。コロナ禍でなければコラボ企画は実現しなかったかもしれないし、いままで興味を持っていなかった人に活動を伝え、参加してもらったこともなかったかもしれないと思うと、自粛期間にも意味があったのだと感じる。

学食提供などは再開の目処が立っておらず、学内での活動制限はまだに続いている。イベントも毎月の開催は難しいが、単発のイベントで終わりがたくないという想いから、第二弾を同じく“cafe279”で、第三弾をほかの地域で行っていくことを現在計画している。代替わりをして、新体制となったTFT-Sophiaでさらに活動を盛り上げていけるよう、励んでいきたい。

“TFT-Sophiaでは、一緒に活動を盛り上げてくれるメンバーを常に募集しています。興味がある方はTwitterやInstagramのDMにメッセージをくださると嬉しいです！”

アカウント情報

Twitter:@tft-Sophia

Instagram:@tftsophia



「チャリティーマルシェ」は来年3月(“cafe279”にて)と、8月(場所未定)に開催できればと考えています。決定次第、上記TwitterやInstagramで広報していく予定です。



Caféの店名279は、人と人を繋ぐ＝「ツナグ」という願いを込めてつけられたそうです。



ご来場の皆様、ありがとうございました。

2020年度上智大学復興支援活動助成金制度に採択された2つの団体 (みちのくrenaissance/Sophia Volunteer Network) の企画について報告します。

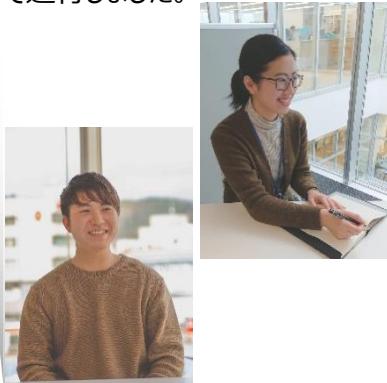
## 1. みちのくRenaissance (1)

みちのくRenaissanceは『東北を五感で知る』というテーマのもと、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域について学び、研究することを目的として本学学生が発足した団体である。「災害と復興」という観点から学生が東日本大震災からの復興についてフィールドワークを通して学び、考え、キャンパス内で発信する活動を行っている。また当団体のSNS等を使用し、学内外の幅広い方々に東北の魅力を発信し続けている。

### ①みちのくRenaissanceバーチャルスタディツアー

#### 第一弾 宮古の旅 (9/17)

ゲストに地域おこし協力隊の吉浜和輝さん・上之原良美さんを迎え、UターンやIターン、関係人口について伺いました。参加者には名産品の「瓶ドン」を記念品として送付しました。



#### 第三弾 釜石の旅 (10/2)

ゲストにゲストハウスを営む東谷いずみさんと株式会社浜千鳥取締役社長の新里進さんをお迎えしました。釜石市の紹介とともに、コロナ渦の事業経営、名産品について伺いました。参加記念品は釜石の食の魅力が詰まったギフトセットでした。



#### 第二弾 久慈の旅 (9/19)

ゲストに町田恵太郎さんをお迎えし、久慈周辺の震災当時の様子、復興の歩み、まちづくりのことなどをお話していただきました。



#### 第四弾 大船渡の旅 (11/6)

ゲストに、整体師でありながら復興活動に従事する佐藤健さんをお迎えし、震災当時の被害状況や佐藤さんの活動、人生軸について伺いました。名産の「かもめの玉子」を参加記念品として送付しました。



#### 第五弾 陸前高田の旅 (日程調整中)

開催は12月中を予定しています。興味のある方はぜひ今後のみちのくrenaissanceの情報をお待ちください。

## 1. みちのくRenaissance (2)

### ② オンライン勉強会 多方面からゲストをお招きし、Zoomにて勉強会を開催しました。

#### 第一回『学生として東北に携わる』(5月31日開催)

ゲスト：東京大学4年生藤田太郎さん

地元岡山でのボランティア経験と、二年次での岩手でのインターンシップをきっかけに、岩手県大船渡市にて「大船渡まちもり大学」を設立。月に一度まちもり大学の運営活動に参加し、地域の高校生から社会人まで幅広い世代に特化した講義とゼミを提供している。



#### 第二回『外とつながる地域貢献』(6月29日開催)

ゲスト：NPO法人かまいしリンク代表遠藤ゆりえさん

大学進学を機に東京へ上京するが、地域の中小企業支援活動を行うために釜石にUターン。東日本大震災をきっかけにかまいしリンクを設立。ラグビーワールドカップの誘致に尽力を尽くし、2019年の開催までキーパーソンとして活躍。その後も釜石のインバウンド化やインターン事業にも取り組んでいる。

#### 第三回『学生として東北に携わるver.2』(7月20日開催)

ゲスト：立教大学4年生柏木さおりさん

高校時代にニュージーランドに留学した経験から、東日本大震災と東北に興味を持ち、大学入学後は様々なプログラムやインターンシップを通して三陸地域とつながる。東京でも東北の魅力を発信したいと、毎月11日に三陸の食を提供する、きっかけ食堂の運営に携わるようになり、東京にいながら東北を発信している。



#### 第四回『都市と地方をつなぐ働き方』(8月25日開催)

ゲスト：株式会社パソナ東北創生代表戸塚絵梨子さん

学生の時から企画運営や立ち上げの面白さにひかれ、様々な活動を行ってきた。東日本大震災時に岩手県釜石市でボランティア活動を始め、現地のニーズを間近でみたことをきっかけに、事業者として活躍するためにパソナ東北創生を設立。地域内外をつなぐコーディネート事業や地域のキャリア支援など豊かな生き方・働き方をつくりだしている。



#### 第五回『地域コーディネーターとして地域内外をつなぐ』(9月28日開催)

ゲスト：釜石市地域コーディネーター細井絵梨さん

学生の時から国際協力に興味をもち、人々の「幸せ」というものを常に意識しながら、東日本大震災をきっかけに、「現地の人の役に立ちたい」とボランティア活動を始め、岩手県釜石市に移住。根浜地域の魅力発信や海外と連携した防災教育プログラムの運営など幅広い活動に従事している。



### ③ 2020ソフィア祭

今年度はソフィア祭にて三陸の郷土料理『ひつつみ』を販売しようと、準備を進めていましたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりました。そこでバーチャルスタディーツアーをまとめた動画を作成しました。宮古・久慈・釜石・陸前高田の計4地域をまとめ、みちのくrenaissanceの組織概要などを含めた動画を完成させ、ソ祭当日に配信しました。各地域の観光スポットや魅力をあつめたものになっています。今後、大船渡を含めた完成ver.を作成し、各みちのくSNSアカウントで公開する予定ですので、是非ご覧ください。



ソフィア祭のために準備していた「ひつつみ汁」のポスター

### ④ 活動報告会 & 特別講演会 (12月13日)

今年度の活動を総括する活動報告会と、特別ゲストをお招きしての特別講演会を同日開催します。ゲストとして岩手県久慈市にて観光PRに携わる藤織ジュンさんをお招きします。みちのくrenaissanceの活動や、東北、ボランティアに興味がある方は是非ご参加ください！

- 日時：12月13日 (日)  
10:30~12:00予定
- 場所：Zoomミーティング
- 申込：下記メールアドレスにご連絡下さい。  
michinoku.renaissance@gmail.com

みちのく renaissance 2020  
オンライン活動報告会  
&  
特別講演会  
拝聴募集

12月13日(日)  
10:30~12:00 Zoomにて開催

東北支援系の学生団体みちのくrenaissanceの活動を紹介、総括する活動報告会と、特別ゲストをお招きしての特別講演会を同日開催します。東北について、ボランティアについて興味のある方はぜひご参加下さい！  
参加申し込みは以下のアドレスへご連絡下さい！  
michinoku.renaissance@gmail.com

タイムスケジュール	
10:30~11:00	団体説明・活動報告会
11:00~11:40	特別講演会
11:40~12:00	質疑応答

特別ゲスト：藤織ジュンさん  
東京都出身。平成27年7月から岩手県久慈市で観光海女と観光PRの仕事をする。同年12月より同地域おこし協力隊に任命。平成30年6月に(同)プロジェクト未知カンパニーを設立。主に市の観光PRに関する仕事をこなしている。

## 1. みちのくRenaissance (3)

### ⑤2020年度の活動を振り返って

- ◇バーチャルスタディツアーでは一般参加者を募集しました。参加者からの声を紹介します。
  - 前半で宮古の観光名所や被災状況について学んだ上で、**地域で協力されるお二人の話**を聞くことができ、**宮古の魅力を存分に感じる**ことができました。また、気になっていた東北に住む方のコロナに対する認識について生みの声を聞くことができ、貴重な機会になった。
  - 実際に東北で活躍している方々のリアルなお話を伺うことができ、新鮮でした。
  - 「瓶ドン」につられて参加したのですが、それ以上に自分と地元の関わり方について考えさせられるきっかけとなりました。地域おこし協力隊として活動されている2人とお話することができて、非常に強いエネルギーのようなものを感じました。**同年齢や1つ上など歳が近い人の話を地域おこしという観点で聞くことがないのでとても刺激を受けました。**
  - 先日の勉強会に参加させて頂いた際に、**とても学びが多く今回も参加させて頂きました。**冒頭でもお話されていたように、近年の日本は自然災害がとても多く東日本大震災が扱われる機会が段々と減っていることを強く感じます。**みちのくrenaissanceさんの活動を通じて東日本大震災の記憶や東北の魅力に触れられることがとても素敵だな**と思います。今後もぜひイベントに参加させて頂きたいです。
  - とても充実していて楽しかったです！東北のことをほとんど知らなかったので緊張していましたが、終始学びや驚きにつながるお話ばかりで、宮古市、ないしは東北の魅力が伝わってきました。質問コーナーにおいても真摯にお答えくださって、**自分の将来を見直すきっかけともなりました。**
- ◇今年度の活動を振り返って、みちのくメンバーの声を紹介します。
  - オンラインだからこそ繋がれる人や聞けるお話も多く、学びの多い年になったと思います。来年以降、オンラインイベントの機会は増えると思うので、今年得た経験と繋がりを大切に、今後活かして欲しいと思います。(文学部4年)
  - 今年度の活動を通して、オンラインならではの出会いや発見など、新しい復興支援のあり方を学ぶことができました。**今、自分にできることが何であるかを考えるきっかけにもなりました。**(法学部4年)
  - 私はオンライン勉強会とみちのくの活動をまとめた冊子作製の担当をしました。外部のデザイナーさんと協力をして作成中の冊子の完成が楽しみです。(外国語学部3年)
  - 今年は**例年通りの活動ができず、当初はどうやって三陸地域と東京の学生を繋ぐことができるのかと悩みましたが、オンラインを駆使して様々な活動をする**ことができ、**とても意味のある1年になりました。**来年は今年オンライン上で出会った方々に直接会いに行きたいです。(総合グローバル学部3年)
  - 当初はオンラインでしかイベントが開催できないことに不安を感じていましたが、逆に**オンラインだからこそ今まで以上にたくさんの人に気軽に三陸地域のことを知ってもらうことができ良かった**です。対面でイベントが開催できるようになったら、今年度参加してくれた方々と一緒に現地に行きたいです。(国際教養学部3年)
  - 私は、今回東北の震災復興に関するサークルに所属する東北の大学生と東北の震災復興についてZoomで話し合うコア係を担当しました。実際に**東北大学地域復興プロジェクト“HARU”さんと、震災についてお互いに意見交換ができ良かった**です。(上智短大英語学科2年)
  - 私はバーチャルスタディツアー宮古編を担当しました。今年は実際に現地に行くことが出来ず、インターネットで情報収集を行い、イベントの準備をしました。**来年こそは直接現地の声を聞きに行きたい**と思います。(総合人間科学部1年)

## 2. 防災WEEK2020 (Sophia Volunteer Network)

10月12日～16日、オンラインにて「防災WEEK2020」を開催しました。

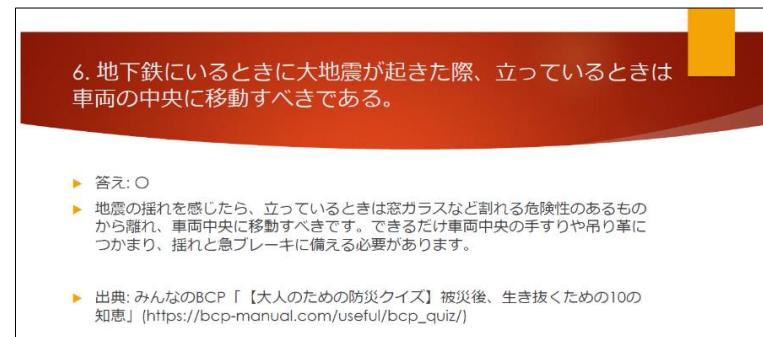
「防災WEEK2020」は、課外活動団体「Sophia Volunteer Network」がこれまでの災害復興支援活動を通して得た教訓である「防災の意識向上普及と震災の風化防止」を目的として実施した企画で、今年で6回目を迎えました。

①**防災川柳コンテスト** 22作品の応募の中から、下記の作品が入賞しました。

- 最優秀賞 「防災に 百利あっても 害はなし」
- 優秀賞 「確かめて 信頼できる 情報源」
- 「非常食 気付いた時には 期限切れ」
- 「伝えよう 過去の記憶を どこまでも」

### ②防災クイズ

身近な防災に関する知識からクイズを10題、出題しました。クイズを完了すると、最後にそれぞれのクイズの解説が表示されます。121名の参加者のうち、全問正解者は42名でした。



### ③「人生に役立つ防災哲学」Zoom講習会 (10月14日開催)

一般社団法人 日本防災教育訓練センター代表理事 サニー・カミヤさんによる講演に、31名の学生が参加しました。「防災哲学」という切り口で、これからの永遠に起こり続ける様々な自然災害を具体的に捉え、考え、乗り越えながら、健康と安全を保持し、人生を豊かに生きることへの気づきときっかけをいただきました。

#### 【参加者の感想】

- ・動画などを見ながら、実際に災害が起きた時のことを具体的に想像しながら話を聞くことができた。
- ・市販の防災セットではなく、いつも食べているもの、使っているものを備品とする、という考え方は目から鱗だった。
- ・中高時代はこういった防災に関する講演が多く意識も高かったが、大学に入り、こういった講演もほとんどなかった為、防災に関する知識を再確認することができ、非常に有意義であった。

### ④「Sophia Volunteer Network」の活動紹介はこちら↓

<https://svnformichikusa.amebaownd.com/>

**みちのくrenaissanceとSophia Volunteer Networkの皆さん、このコロナ禍において、工夫をこらした素敵な企画を実施してくださり、ありがとうございました！(VB)**